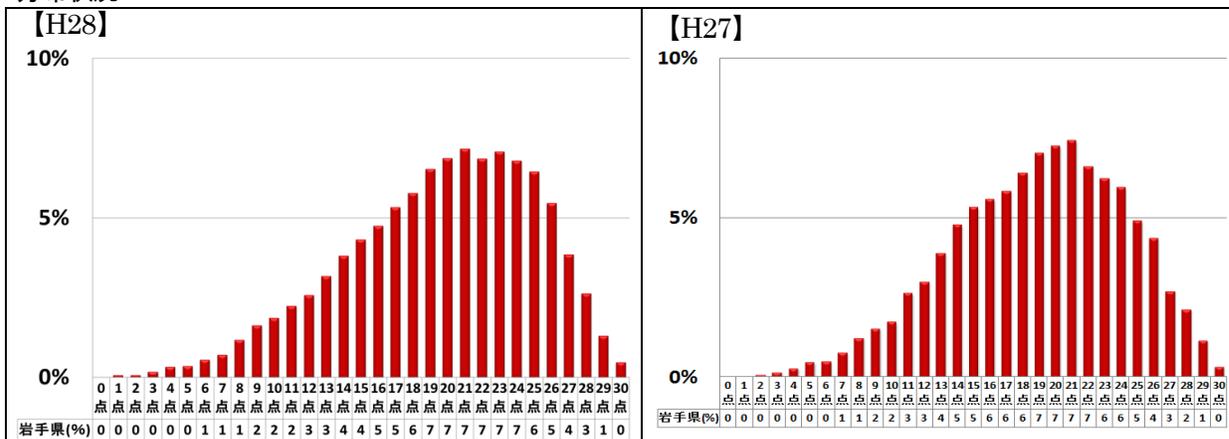


授業改善の手引 小学校第 5 学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は 21 問、平均正答数は 20 問です。昨年度の分布と比較して山が右に移動しています。また、平均正答数が 15 問以下の児童が全体の 23% となっており、この層に属する児童へのきめ細やかな指導が引き続き必要です。正答数 16～23 問の層の児童が全体の約半数を占めており、この層に属する児童への指導の工夫が重要です。
(正答数の最頻値：該当する児童数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率		
	() は H27, () は H26		
話すこと・聞くこと (6 問)	62%	(71%)	(59%)
書くこと (2 問)	54%	(54%)	(59%)
読むこと (10 問)	64%	(54%)	(55%)
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (12 問)	70%	(67%)	(78%)
活用	50%	(54%)	(48%)

(3) 結果概要

- 領域ごとの正答率を比較すると、「読むこと」については昨年度を上回りました。正答率も 64% とよい傾向にあります。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、「文脈に沿って、漢字を適切に使う」問題の正答率が向上するなど、よい状況にあります。
- 活用に関する問題「目的や必要に応じて、叙述を基に登場人物の心情を読む」は正答率 62% であり、よい傾向にあります。
- 「読むこと」の領域「文と文とのつながりをとらえて読む」と「文章の内容を的確に押さえて読む」問題の正答率は低い傾向にあり、依然として課題が継続しています。
- 活用を意識した問題においては、「話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く」が正答率 49%、「目的に応じて理由を挙げて意見を書く」は正答率 48% と指導の工夫が必要です。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マイナスを表す)

小問No	正答率	比較	小問No	正答率	比較
●11 (伝国)	74	0	○19 (読)	74	19
●12 (伝国)	80	▲ 1	○27 (読)	81	26
◇16 (伝国)	35	12	●30 (書)	48	2

- 小問 16, 19, 27 は正答率が 12 ポイント以上向上するなど改善傾向が見られましたが、引き続き注視が必要です。
- それ以外の小問については、依然として課題が継続している状況です。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)						
大問	中問	小問	通し番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)		1	発言の内容の大体をとらえて聞くことができる。	5・6年「話・聞」(1)エ	話・聞		96	1	2	96	1	0		0
	(2)		2	発言の内容をもとに、話し合いの流れをまとめることができる。	5・6年「話・聞」(1)エ	話・聞	活用	49					49	49	2
	(3)		3	話し合いにおける司会の役割をとらえて聞くことができる。	5・6年「話・聞」(1)オ	話・聞		38	36	38	21	5	0		0
2	(1)		4	相手の聞きたいことを考えて、質問に答えることができる。	5・6年「話・聞」(1)イ・エ	話・聞		73	73	8	2	16	0		0
	(2)		5	聞き手に伝えたいことが分かりやすいように、話の構成を考えることができる。	5・6年「話・聞」(1)イ・エ	話・聞		65	5	11	17	65	0		1
	(3)		6	資料の情報を分類したりまとめたりして、明確に説明することができる。	5・6年「話・聞」(1)ア・イ	話・聞	活用	49					42	49	8
3	(1)	①	7	第4学年配当漢字「栄(える)」を正しく読むことができる。	3・4年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		65					28	65	7
		②	8	第4学年配当漢字「残念」を正しく読むことができる。	3・4年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		98					1	98	0
	(2)	①	9	第3学年配当漢字「寒い」を正しく書くことができる。	3・4年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		68					30	68	2
		②	10	第4学年配当漢字「積極」を正しく書くことができる。	3・4年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		52					37	52	11
	(3)	ア	11	漢字辞典で部首索引するときの部首の画数を答えることができる。	3・4年「伝国」(1)イ(カ)・ウ(ウ)	伝国	経年	74					23	74	3
		イ	12	漢字辞典で部首索引するときの部首名を答えることができる。	3・4年「伝国」(1)イ(カ)・ウ(ウ)	伝国	経年	80					16	80	5
	(4)	①	13	文の意味を考え、反対の意味の言葉を答えることができる。	3・4年「伝国」(1)イ(オ)	伝国		93	2	1	1	93	2		0
		②	14	文の意味を考え、反対の意味の言葉を答えることができる。	3・4年「伝国」(1)イ(オ)	伝国		93	93	1	1	2	2		1
	(5)		15	漢字の組み合わせ方が同じ熟語を答えることができる。	5・6年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		43	5	17	43	32	1		1
	(6)		16	文の構成を理解し、修飾語を正しく使うことができる。	3・4年「伝国」(1)イ(キ)	伝国	経年	35	10	15	39	35	0		1
(7)		17	故事成語の意味や使い方を答えることができる。	3・4年「伝国」(1)ア(イ)	伝国		58	13	58	22	4	0		2	
(8)		18	文の意味を考え、漢字を正しく使うことができる。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		75					18	75	7	
4	(1)		19	場面の移り変わりを考え、登場人物の会話の一文を挿入することができる。	3・4年「読」(1)ウ	読	経年	74	4	15	74	4	1		2
	(2)		20	登場人物の行動から、気持ちを読むことができる。	5・6年「読」(1)エ	読		91	1	3	4	91	0		1
	(3)		21	登場人物の言葉から、登場人物の言おうとしている意味をとらえることができる。	5・6年「読」(1)エ	読		78	78	8	4	9	0		1
	(4)		22	登場人物の言葉から気持ちを読み、音読の仕方を考えることができる。	5・6年「読」(1)ア	読		78	15	78	4	2	0		1
	(5)		23	場面の展開に即して、登場人物の気持ちをとらえて読むことができる。	5・6年「読」(1)エ	読	活用	62					29	62	9
5	(1)		24	文と文のつながりをとらえて読むことができる。	3・4年「読」(1)イ	読		48	6	48	32	11	1		2
	(2)		25	文章の内容を正しくとらえて読むことができる。	5・6年「読」(1)ウ	読		48	10	9	48	30	0		3
	(3)		26	説明されている事柄について、その内容を抜き書きすることができる。	5・6年「読」(1)ウ	読		44					41	44	15
	(4)		27	段落相互の関係をとらえ、説明されている段落をとらえることができる。	3・4年「読」(1)イ	読	経年	81	1	4	7	81	1		5
	(5)		28	文章の内容を正しくとらえながら、要約することができる。	3・4年「読」(1)エ	読	活用	39					44	39	16
6	(1)		29	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書くことができる。	3・4年「書」(1)イ	書		60					26	60	15
	(2)		30	自分の立場とその理由を挙げて、意見を書くことができる。	3・4年「書」(1)ウ	書	経年活用	48					35	48	17
全体正答率								65							

2 指導のポイント

(1) 図鑑や事典等を利用して、目的や必要に応じて文章の内容を要約する学習活動を位置付けましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

5 (5) 目的や必要に応じて文章の内容を要約する。第3・4学年「読」(1)エ 正答率 39%

イ 誤答分析

- (ア) 誤答率は44%、無答率は16%でした。誤答を分析すると、「前足や後ろ足の指で、枝がにぎれます」というサルの特徴に関連付けた文章を見付けることができなかつたものと、文章とは関係なく自分が知っている知識を書いたものが多く見られました。
- (イ) この問題では、サルの木登りの特徴について述べてある段落に着目して、その特徴からできることを見付けて短くまとめることが求められます。つまりきの要因として、【ミニ図かん】の「特ちょう1」について、木登りの仕方とできることとの関係をとらえられなかつたため、「特ちょう2」の枝のにぎり方とできることとの関係を文章から見付けて要約することができなかつたと考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-5(3)】

- (ア) 要約の指導では、児童が要約する「目的」や「必要性」を明確にもつことが大切です。一斉指導の中で、教科書教材だけを要約する学習で終えるのではなく、学んだことを生かして、一人一人が自分が調べたい課題を明確にして、集めたい情報を考え、図鑑や事典の見出しや写真、その解説の文章から、目的や必要に応じてまとめるような言語活動を位置付けましょう。単元開始前から関連する図書を学級に置いておく、関連する新聞記事を紹介するなど、児童の学習に対する関心を高めるような工夫も有効です。
- (イ) 【ミニ図鑑】などの言語活動を位置付けたとき、目的に応じて、着目した大事な文や言葉を関連付けながら読み、取り上げる内容を明確にしてまとめる学習を位置付けましょう。「短くまとめる」「問いと答えでまとめる」「文章と文章を矢印でつないでまとめる」など、児童が着目した大事な文や言葉のつながりを意識しながら、目的に応じて内容をまとめることができるようにしましょう。
- (2) 登場人物の心情の変化について、根拠となる事実を複数の場面や文章から見付けて説明する学習活動を大事にしましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

4 (5) 目的や必要に応じて、叙述を基に登場人物の心情を読む。第5・6学年「読」(1)エ 正答率62%

イ 誤答分析

- (ア) 誤答率は29%、無答率は9%でした。誤答の多くは、文章中から抜き出さずに、登場人物の心情を自分なりに想像して書いたものと、登場人物が心を決める前の「許してくれないかもしれない」という部分を書き抜いたものでした。
- (イ) この問題では、「どんな心情から」「何をきっかけに」「どのような心情に変化したか」を、根拠となる文章を基にしながらか読むことが求められます。つまりきの要因として、教師から与えられた場面だけの心情を読むことが多く、心情の変化について、文章全体を俯瞰して場面と場面を関係付けて考えたり、複数の叙述を根拠にして説明したりするという学習経験が不足していることが考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-4(2)】

- (ア) 登場人物の心情を考えるには、文章全体から複数の叙述を関係付けて読むことを大事にします。その際、場面の展開とともに変化していく登場人物の相互関係を押さえ、その内面にある心情と表現とを結び付けることが大切です。中学年までは、一人一人の登場人物の行動や性格に基づき、場面の展開に即して変化する気持ちを中心にとらえていたことをふまえ、高学年では、登場人物の相互関係から人物像やその役割をとらえ、内面にある深い心情も合わせてとらえることにつないでいく必要があります。
- (イ) 授業では、例えば、作品全体を見通せるような学習シートを活用して、児童が象徴性や暗示性の高い言葉、行動や会話が心情を反映している文章に着目し、サイドラインを引いたり、余白に心の動きを書き込んだりしながら、場面の展開に即して変化していく登場人物の心情をとらえることができるようにしましょう。登場人物の心情は、直接的に描写されている場合だけでなく、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もあります。

(3) 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くとともに、発言を整理したり、促したり、まとめたりする司会の役割を理解させていきましょう。

ア 問題の概要 【(2) 活用問題】

1	(2) 話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話」(1)エ	正答率 49%
	(3) 話し合いにおける司会の役割がわかる。	第5・6学年「話」(1)オ	正答率 38%

イ 誤答分析

- (ア) 誤答の多くは、(2)は「気をつけること」を省いてしまったもの、(3)は「発言があるたびに発言者にたしかめていた」や「意見が出やすくなるように、質問のしかたを変えていた」と答えたものでした。
- (イ) この問題では、考えを一つにまとめる協議において、話し手の発言を受け止め、適切な話し合いの観点を明確にしていくことが求められます。つまりきの要因として、司会者の立場に立ったときに、進行表を見ながら司会をする経験はあっても、話し合いの状況に応じて発言者の考えを関係付けながら、話し合いの流れを確認したり整理したりするという経験が不足していることが考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-1(1)(3)】

- (ア) 司会の役割をとらえるためには、司会者の発言を取り上げ、その役割を考えることが効果的です。例えば、本調査で出題した聞き取り問題読み原稿の司会者の発言を抜き出し、それぞれの発言がどんな役割を果たしていたかを考える場面を位置付けるとよいでしょう。また、話し合いの動画を見ながら、これまでの司会の経験との比較をしたり、途中で動画を止めて司会者のふさわしい発言を具体的に考えたりするなど、司会の役割を子どもたちが実感的に気付くことができるようにすることも有効です。
- (イ) 学習したことを踏まえて、実際に児童一人一人が司会の役割を果たす経験をする機会を設けるようにすることが大切です。話し合いの後には、司会の進め方でよかった点や改善点などについて交流し、どんな進め方がよかったか、よりよい進め方をするにはどうすればよかったかなどの話し合いを通して、司会の役割について理解を深めることができるようにしましょう。

【司会の役割について考える学習活動を位置付けた展開例】 <1 時間の流れ>

教材例 平成28年度岩手県小学校学習定着度状況調査 小学校第5学年国語1



【学習の見通し】

- これまでの経験から、話し合いにおける司会の役割について想起する。
- 今までの経験と比べながら、司会の役割について考えるという課題意識を明確にする。

【学習課題（学習問題）を解決するための学習活動】

- 問題1(3)の選択肢を取り上げて、右枠に示した【司会の役割】と実際の話し合いの状況に応じた司会者の進め方を照らし合わせる。
- ③を踏まえ、本調査聞き取り問題読み原稿の司会者の発言を抜き出し、【司会の役割】と照らし合わせ、司会者の進行の工夫について確認する。
- 問題文の司会者の最後の部分に着目して、**司会の役割(4)**を踏まえた実際の話し合いを想定し、合意形成するためのふさわしい進め方について考える。

【学習の振り返り】

- 話し合いの状況に応じた司会者の進め方の重要性をまとめ、実際に学習したことを生かした次時の話し合いへの意欲を高める。

【司会の役割】と「具体的な発言例」
<問題番号1(3)の選択肢との関連>

- 【発言の内容を整理する】
「今の〇〇さんの考えは、・・・ということですね。」
<該当選択肢1>
・発言があるたびに、その内容をまとめて発言者にたしかめていた。
- 【理由や根拠を明確にする】
「〇〇さんが・・・と考えているのはなぜですか。」
<該当選択肢4>
・意味の分かりにくい発言には、自分から質問して説明を求めている。
- 【他の意見を求める】
「〇〇さんの発言に関する意見はありますか。」
<該当選択肢3>
・みんなから意見が出やすくなるように、質問のしかたを変えていた。
- 【出された意見を比較・検討する】
「それぞれの意見には、どのような長所と短所がありますか。」
<該当選択肢なし> ※合意形成のための役割
- 【結論を確認する】
「・・・については、・・・することに決まりました。」
<該当選択肢2>
・出された意見を整理して、このあとで話し合うことを示していた。